

令和3年度 第2回 宇部市地域自立支援協議会 会議録

日 時:令和4年3月24日(木)18:00~19:30

場 所:宇部市総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール(大)

出席者:委員15名(出席者のうち Web での参加1名)(欠席者3名)
市8名

1 報 告

(1)障がい等地域支援ブロック会議の報告 (資料 1)

■意見及び質疑応答 なし

2 議 事

(1)日中サービス支援型共同生活援助事業における実施状況の報告及び評価について (資料 2-1, 2-2, 2-3)

<支援体制の確保と支援実施について>

■意見及び質疑応答

- ・ご本人の可能性やできる事を伸ばしていくという、利用者の意向にしっかり対応していると思う。
- ・重度の知的障害の利用者の意向を把握する工夫、秘訣はあるのか。
→ご家族からのヒアリングや利用者が通っていた学校関係者から本人がこんなことを言っていた、とかこういったことが得意だったなどの話からご本人と関わる中で意向を引き出していきたいと思っている。好きなことなどを理解していきニーズに繋げていきたい。
- ・意向やニーズの把握については、ご本人の様子をよく観察することも大事。
- ・ご本人が口で話されていること内面で思っている事が違うということもある。言葉の背景をいかに支援者側が汲み取るか、ということを日々考えながら接している。言われている事がコロコロ変わっても柔軟に対応できるよう視野を広げ、多方面から見た考え方、見方をしよう支援者は努める必要がある。
- ・職員の配置を手厚くしている時間帯等はあるか。
→日曜日などのサービス提供事業所が休みの日などは手厚くしている。
- ・コロナ禍で、入所施設だと外出中止、面会中止、となり今まで通りの日常が送れなくなってしまうことがあるが、買い物や外出もされているということで、コロナ禍において工夫されたことがあるか。
→日常生活の体験を途切れさせてしまうことは避けたい。対策としては、最小限の人数で買い物に行く、移動時間や滞在時間を短くする、手指消毒を徹底する、等。買い物時間が短くなったので、移動スーパーにも来てもらっている。

◆評価

切れ目のない人員配置ができており、入所を断られた人や長期入院を余儀なくされている人などの受け入れをしている。また就労移行支援を利用しながら就労継続支援 B 型へ通所される人がいることや相談支援専門員との連携がとれていること、重度の障害がある人への外出や余暇活動の支援を実施していることから、支援体制の確保及び支援の実施はできている、と評価。

<地域に開かれた運営>

■意見及び質疑応答

・地区の役員定例会議に施設職員が毎回出席され施設の実態や活動(誕生日会やバンド呼んでの音楽イベント、レストランの運営など)を話され、施設の事を知ることができている。地域では、高齢者やこどもについての関わりは深くあったが、障害のある人に関しては情報が少なかったのでよくわからなかったが、今では実態がわかるので構えることなく理解できている。他のたくさんの地区でも同じように地域内にある事業所が地区の会議等に参加し、事態を説明し共に分かちあうようになればよいと思っている。

・ご家族から、コロナ禍だが、もっと面会したい、といった要望はあるか。

→要望があるご家族に対しては、テレビ電話を活用し、リモートでの面会を実施した。また、市をまたぐ外出規制があった時は、ご家族が面会に来られないので、利用者が自宅に外泊をされることもあった。

◆評価

民生委員の会合に参加し提案された近隣の人が栽培している畑の収穫体験に参加したり、今はコロナ禍で実現できていないが地域住民と共同で防災訓練や行事の開催を計画されていることから、家族や地域住民との交流はできている、と評価。

<短期入所の併設>

■意見及び質疑応答

・定員1名ということだが、既に1名利用されていた場合、緊急でもう一人となったらどうするのか。そのような事例はあったか。

→定期利用ということで、毎週土曜日利用されている場合は、緊急の利用者がおられたら、その時は定期利用者に自宅で過ごしていただくようお願いしているが、複数の緊急の利用者の時間帯が被った場合は、申し訳ないがお断りさせていただいている。

◆評価

将来グループホームの利用を検討している生活介護利用者に対して定期利用を実施していることや、突発的な利用ニーズに対しても可能な限り対応していることから、緊急時の受け入れ体制はできている、と評価。

<職員の資質向上への取り組み>

■意見及び質疑応答

- ・災害の際の避難体制、職員支援はどのようになっているのか。
- 施設が建つ時に、地域で指定されている避難所に災害時避難可能か確認したところ、難しいとの回答がなされた。今のところ、職員が誘導し、施設内での垂直避難をするようにしている。避難する時間がある場合は、施設の車で移動し、系列の他施設での避難も可能。避難の際は、利用者が安心できるよう、職員で支援する。今後も避難場所については、継続的に検討していく。この施設(建物)自体が避難所として機能できるようにしていきたい。
- ・市には福祉避難所をすすめていき、そこと連携をとりながら一緒に対応していくことを望む。

◆評価

各種会議を原則月1回開催し、その内容を職員に対し周知していること、研修に参加された職員が社内研修を行い、研修内容を社内に伝達していること、また、資格取得にかかる費用の全額補助をおこなっていることなどから、職員の資質向上に取り組んでいると評価。

(2)地域生活支援拠点等の機能充実のための運用状況の検証及び検討に向けて
(資料 3)

■意見及び質疑応答 なし

(3)専門部会等の設置に関する提案 (資料 4)

■意見及び質疑応答

- ・サービス管理責任者の研修の中に地域自立支援協議会に関する内容がある。それほど全国的にも地域自立支援協議会に対する注目度も高いと感じている。宇部市内の福祉サービス事業所の方々の本協議会の認知度がとても低く10%程度。名前は知っているが何をしているのかわからない、というのが大半ではないか。他市の事業所は、自分の所の市の地域自立支援協議会に参加している、といわれる方が8割おられる。他市は部会があり、それに参加されるから認知度が高いと思われる。宇部市内には、事業所が参加できる会議があまりない。このままでは宇部市の福祉の発展は難しくなるのでは、と危惧している。是非部会を立ち上げていく仕組みを時代にあわせて変えていき、何年かかけてでも検討していくことが大事と考える。若い人たちが参加できる仕組みが必要。

◆今後の方向性

部会設置については、今後の継続課題とする

3 その他 なし